

令和元年度 第3回栃木市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和2年2月4日(火) 午後2時00分～午後3時30分

2. 場 所 栃木市役所 議会会議室

3. 出席者

(構成員) 大川秀子 市長、青木千津子 教育長、後藤正人 職務代理者、
福島鉄典 委員、西脇はるみ 委員、大橋孝子 委員、舘野知美 委員、
林慶仁 委員

(事務局) 増山 総合政策部副部長兼総合政策課長、
川津 教育部長、鵜飼 生涯学習部長、
江面 教育総務課長、大阿久 参事兼学校教育課長、
佐藤 生涯学習課長、
三谷 学校教育課主幹、藤間 学校教育課主幹、他担当職員

4. 内 容

(1)開 会

(2)あいさつ

○大川市長

日頃より栃木市の教育行政のためにご尽力を賜りお礼申し上げます。

今回より舘野委員に加わっていただきます。既に11月より委員として務めて
いただいております。関わる事が多く驚いているとのことですが、それだけ教育委
員の皆さんが熱心に教育行政に活動されていることだと思います。大変なことも
あると思いますが、今後もよろしくお願いします。

台風19号では学校施設でも被害があり、国県の査定が終わってから改修とい
うことで、復旧に時間がかかっておりご不便をおかけしていますが、きちんと整
備する方向で進めていますので、ご理解ください。

災害対策本部として対応してきましたが、緊急的な対応が終了したことから、
2月3日より災害復旧復興対策本部に切り替え、復旧復興を進めていきます。ま
だまだ、生活を再建できない市民も多くいますので、引き続き努力をしながら、
元気な栃木市を取り戻すため力を尽くしていきます。まずは安心して栃木市に住
める環境づくりを国県と連携しながら進める予定です。安心して住めることが、
人口減少を食い止めることとなりますので、基盤を整備しないといけないと思
います。市民が前を向いて希望をもって進めることが重要ですので、様々な事業を
通して市民が希望を持てる栃木市になるよう進めていきますので、ご協力、ご支
援をお願いします。

先日外国人のスピーチコンテストがあり、数か月しか日本にいない方が、上手
に日本語を話していました。日本の教育において、語学力が心配されていますが、
青木教育長のもとグローバル教育を進めていきますので、ご協力をお願いします。

よろしくお願ひいたします。

(3) 協議・調整事項

① 公開研究発表会の成果について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

事務局より説明がありました。皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思います。

○福島委員

研究授業を行うことで、ベテランの先生と若い先生と一緒に同じテーマで授業を見て、討論することが重要だと思いました。若い先生は不安がある中でアドバイスをもらえて、ベテランの先生は若い先生の授業を見て刺激になると思います。色々なテーマを設けて多くの先生が取り組むことは重要なことで、交流も生まれて、非常に良い取り組みだと思います。研究発表会で、ある先生が不易と流行の視点で話をしていました。変えてはいけないものと変えていかなければいけないものをまとめていました。非常に参考になるもので、先生だけではなく、民間人や経営者にも大切なことが書かれており、このような先生は、若い先生にとって理想の先生と思えるような気がしました。

○大川市長

不安な新任教員等がいるなかで、先輩教員の援助や支援が教師の質を高めて、育てていくと聞いています。研究発表の成果を次に生かしていくことに取り組むと良いと思います。

○青木教育長

若い先生と先輩の先生がお互いに学び合うことが重要だと思います。多くの学校で、学び合いが出来ていると思います。

○館野委員

学校の中、クラスの中でペア学習やグループ学習が根付いているとの話がありました。小学校で学び合いをした子ども達は、中学校でも学び合いが出来ていると思います。一見クラスの中がざわついた雰囲気になりますが、各々が学び合う姿勢が出来ていると思います。

○大川市長

子ども達にとっても、先生方にとっても学び合うことは大切なことです。

○青木教育長

先生方が学び合っている姿は子ども達にも反映します。

○後藤委員

大学でもアクティブラーニングの一環として、それぞれの授業を先生方が見合って協議します。授業を見合うと実に面白いです。結果的に先生方の授業に対して、大学もきちんと対応しないと学生が育たず、社会貢献が出来ないことにたど

り着くので、授業を通した研究は大切だと思います。

南中の先生が不易流行をテーマに取り上げていました。指導要領が改訂された時だからこそ、子どもに向き合っている先生が心得ていないといけないことは原点回帰です。教育は不易だけでは成り立たず、流行についても敏感でいなければならないが、それをわきまえて教育にあたるのが大切です。「軸がぶれない指導をしなくてはいけない」、「子ども理解が一番の仕事で、教育の要である」、「心がこもっていないと美辞麗句をならべても子どもの心は動かない」、「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は育たぬ」、「児童生徒の決まり、約束は、教師自身も守る」、「夢を語れぬ教師に子どもはついて来ない」、「労を厭わぬ行動力で勤務する」「不易を若い世代に伝えていく」などが不易のところに書いてあります。流行についても連携についてどうあるべきか、「正直に本音で子どもの成長を話題の中心にして語れる連携でなければならない」、「良く効く薬には副作用がある」などです。例えば、百マス計算などは、全国どこでも算数で行えば、数学的には身に付くと錯覚してしまいますので、バランス感覚が大切だと言っているのだと思います。「礼に始まり礼に終わる」などは裏返し現実だと思います。「現状維持をしようとすれば退化していく」など一つ一つが響いてきます。会社の経営者にしてみれば経営に活かせることだと思います。共感することは、教育、教科だけではなく生活の中で活かせるところがあると思います。そこまで掘り下げた発表だったということで、栃木市はすばらしいと再認識しました。

○林委員

小学校の授業の講評で、今日の授業はつぶやきが多かったのが良かったと話していました。私が子どもの頃は、授業中、話してはいけないと教わったが、授業に関してつぶやく子どもが多いほど良い授業とする評価があることを学びました。中学校はどうかと聞いたところ、中学校ではつぶやきはほとんどしないということで、自我が出てくる段階で、授業のスタイルが変わり、つぶやいていたのに対し、自分で考えていかなければならないと変わっていくのだと思いました。

○大川市長

元文部科学大臣の話で、AIが発達して、ほとんどのことをロボットが出来る時代になった時に、学校教育の中でコミュニケーション能力や人を思いやる教育など、ロボットには出来ない教育をしないといけないということです。日本の教育は、人が幸せになることを目的とした教育をしているのか、単なる知識を教えている教育ではないかと言う話でした。高校、大学受験には知識が必要ですが、そのようなことはロボットが出来るので、ロボットに出来ない教育をしないといけない時代になってくるのかもしれない。

○福島委員

研究発表の際に、不易流行の話をしていた先生が、仲間と笑いがあったから今があると話されていた。これはロボットには出来ないことです。

○大川市長

人をほめて育てるとか、そういうことは人生訓として誰でも通用することです。良い研究発表だったと思います。

○青木教育長

学校での先生同士の学び合いも充実してきていますが、教育研究所主催の自主研修としての学び合いもありますので、事務局から紹介してください。

○事務局

栃木市教育研究所の希望研修として、勤務時間後の18時30分から20時まで、栃木中央小学校の教育研究室を会場として4つの研修を行っています。1つ目は、授業づくりラウンドテーブルです。中堅の先生約20名が参加し、授業作りで困ったことや、次の授業で行いたいことを、材料を持ち合い、4、5人のグループで授業づくりについて学び合いをしています。

2つ目は、学級づくりパワーアップ研修です。5年目くらいまでの若手の先生が対象で、30名くらい申し込みがありました。新任または経験の浅い先生として困っていることを、研究所長の松本先生にご指導いただきながら、同じ悩みをもった仲間と意見交換して、自分の持っているクラスで、明日子ども達にこんなことが出来ると元気を持てる研修です。

3つ目は関わりスキルアップセミナーです。子どもや先生、保護者、関係機関などとの関りのスキルを上げるもので、主に特別支援教育に関する内容です。4名の先生でスタートしましたが、第二次募集を行いましたところ、30名以上に増え、教育現場での特別支援教育の必要性が実感できました。

最後は、イングリッシュサロンです、ALTが10名くらい、英語の先生だけでなく小中学校の希望する先生が20名くらい来て、実際にALTと英語でのやりとりをしながら、先生自身が英語でのコミュニケーションを楽しみ、自信を持って次の授業に活かすという研修です。全ての研修を年5回ずつ実施しています。

○大川市長

良い人材を育て、意欲をもてる学校現場でないといけないと思います。先生を目指す人が少なくなっているそうですが、先生になりたい人がいなくなることは、子ども達を育てる意味では危機的状況です。先生方の意欲を後押しして、先生が働きやすい環境を作る必要があると思います。

○青木教育長

悩みがあったら相談でき、助け合える雰囲気が、学校内だけでなく、学校の垣根を越えて市全体で高まり、教育研究所に行けば力がもらえる、ということが更に広がっていくと良いと思います。

②グローバル教育推進事業の進捗と方向性について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

事務局より説明がありました。皆さんから質問、ご意見をいただきたいと思います。

○大橋委員

イングリッシュキャンプ、イングリッシュセミナーは、ある程度英語に興味がある

あって、小さい時から英語に関わっている意識の高い子どもが参加するイメージがありますが、レベル的にはどのような子どもでも対応できる内容ですか。

○事務局

英語に興味のある子どもが多いと思いますが、そうでない子どもも参加しています。ALTは学校に訪問して学校生活の中で配慮が必要な子どものことも把握していますので、英語に興味のない子どもも楽しめる内容です。

○大橋委員

初心者や英語が苦手でも参加できることをアピールすると参加者が増えると思います。

○後藤委員

グローバル教育と言うと英語教育、外国語教育と短絡的にとらえる方が多いです。私はそうは思いません。栃木市の目指す子ども像を見ると「多様性を受容し、主体的に思いや考えを伝える」ことを重視しており、素晴らしいと思います。ふるさと栃木には、自然や伝統文化などすばらしいものが多くあり、自分たちの生まれ育った栃木が素晴らしいことに着目することによって栃木への愛着が身につくについて、それが世界の良さを見る下地になると思います。小学校ではグローバル教育イコール英語の前にやることが多くあり、それも含めてグローバル教育だと思います。子ども達に考えなさい、友達と伝え合いなさいと100回言っても、子ども達は、具体的にどんな問題があって、伝え合うための基礎的な知識がないと伝え合いの場に入れないです。先生方が具体的にしっかりと教えることで、子ども達は自分の考えを皆に伝える術を身に付けていくと思います。目指す子ども像に集約されることが、グローバル教育だと思います。地球規模でものを考えることの重要性を、毛利元宇宙飛行士などが全国で言っています。地球規模で考えないといけないし、その考えを大切にすれば、国同士の争いはなくなると考えています。短絡的にグローバル教育イコール英語教育ではないということにこだわりたいと思います。

○西脇委員

外国に行っても、子どもは恥ずかしがらずに、発音など関係なく単語だけを言って話しています。ネイティブな方と密に関わると、発音も上達すると思いますので、イングリッシュキャンプなどは触れ合う良い機会だと思います。環境に触れることは覚えることよりも子ども達にとっては楽しいことだと思います。他の国にも興味を持ち、そのうち英語に限らず色々な言葉への興味も出てくると思います。異文化に触れるのは良い経験なので大賛成です。

○舘野委員

今後の方向性として、外国人児童生徒への日本語指導とあります。栃木市では外国人児童生徒が増えて、日本語が分からず授業についていくことも大変で、学校からの伝達事項も家庭に伝わらないことが悩みと聞きましたので、今後取り組むと聞いて安心しました。具体的にはどのような内容か教えてください。

○事務局

今現在、日本語教室が栃木中央小と大平中央小に設置されており、日本語教室に入りたい外国人には可能な限りどちらかの学校に入るよう勧めています。ただし、

小学生にとっては、登校の際の送迎の問題があり、必ずしもその学校に入学出来ると限らない状況です。その場合は、市の指導員が子どもの学校に行って指導しています。初期指導を約6カ月行いますが、初期指導のみで、学習に必要な日本語がマスター出来る訳ではなく、日本語学習がスタートしたばかりの段階で子ども達が学校に行くことになるので、引き続き、支援をしています。十分とは言えない状況ですので、日本語教室や日本語指導者を増やすことを今後考えていきたいと思えます。

○青木教育長

各学校でも努力しています。日本語を教える側面からの努力も行っていますが、外国から来た子ども達、今は、外国に繋がる子どもと表現しますが、そのような子ども達の自己有用感を高めるために、その子ども達の文化や言葉を集会などで紹介する機会を設けています。ある小学校では多い時で10カ国くらいの子どものが在籍していますが、ワールド集会として、それぞれの国のじゃんけんを全校児童で行うなどして、外国に繋がる子ども達が楽しく、自尊感情を持ちながら学校生活を送れるよう工夫している学校が増えてきました。

○大川市長

保育園に行った際に、外国の子どもが多く、地域によっては色々な国の子どもがおり、その状況に保育士が対応しないといけなないので、苦勞が大きいと思えます。外国に繋がる子ども達が学校教育についていけずに、学習の機会を失ってしまうことも増えているので、日本の子ども達に外国語を教えるのと同時に、外国に繋がる子ども達に日本語を教える機会も設けないといけな状況になっているということで、今回、外国に繋がる子ども達への日本語教育を記載しています。現場は大変だと思えますが、小学校の内からコミュニケーション能力をつけていく教育がされているので、学びやすく、実際に生きる英語になっています。文法を学ぶのではなく、話すことから始まっており、語学力が身に付くと思えます。20年くらい前は、日本語が出来ない内に外国語を学ぶのではなく、しっかりと日本語を学んでからと言っていました。これから国際社会で活躍できる人材を育成しないといけなないので、外国語教育は重要になってきており、ALTも徐々に増やしています。

○福島委員

イングリッシュキャンプなどの事業を行うと費用がかかりますが、増やしていく予定ですか。

○事務局

来年ALTを増やします。

○大川市長

イングリッシュキャンプなどに参加する機会を増やすことも重要です。限られた参加者だけが語学力を身に付けることになるので、全ての子どもに機会を与えないといけなと思えます。

○青木教育長

グローバルデイとしてALTが複数で学校を訪問する事業を徐々に増やしていきたい、コミュニケーションが出来た喜びを知ってもらいたいと思えます。以前の先

ず文法や単語を詰め込んでから、話すという指導が反省されています。コミュニケーションしながら、コミュニケーション能力や知識、文法を身に付ける考え方に変わってきており、そのためにもALTとの触れ合いが大切だと思います。グローバル教育は全人教育だと思っています。

○大川市長

来年度はグローバル教育推進係、再来年度は学校教育課の中にグローバル教育推進室を設置して、青木教育長を筆頭にグローバル教育を進めて行くと考えています。

○館野委員

スピーキングテストが終わった後、生徒がスキップしており、コミュニケーションが上手くいった自信が表れていると思うとうれしく思います。

○青木教育長

英語が出来る子どもを育成するのではなく、英語が好きな子どもを育てようとの思いで先生が取り組んでもらえると良いと思います。

○後藤委員

近所に、外国の家族がいて、非常に明るく、自国の素晴らしいところを話していて、栃木市も素晴らしいと話していましたが、台風で床上浸水してしまいました。初めの頃は相談に来て、対応していましたが、自分の家の対応をしていたら、気が付かない内に引っ越してしまいました。相手の国の文化や習慣を理解することは時間のかかり、たやすいことではないと感じています。

○西脇委員

マレーシアに行く機会がありましたが、異文化に触れることは良い経験だと思いました。

○大川市長

高校2年生のタイの留学生を受け入れています。英語が堪能です。韓国語も出来て、日本語を習っていて、今度はフランス語を勉強したいと言っています。

○西脇委員

複数の言葉を話せることは普通で、3カ国語くらい話せるみたいです。

○大川市長

外国の子どもは、学ぶ意欲が違うと思います。その為、短い期間で多くの言葉を学習できるのだと思います。

(4)その他

※事務局から次回の日程等について説明を行った。

(5)閉会 (15:25)